

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0971000328		
法人名	社会福祉法人邦友会		
事業所名	おおたわらマロニエホーム		
所在地	大田原市北金丸2600-8 (電話) 0287-20-2505		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月13日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日、平成15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人(うち兼務1人), 常勤換算7.5人	
	7 人	常勤7人(うち兼務1人), 常勤換算6.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC造り		
	2階建ての2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—650円/1日 ・共益費—200円/1日 ・理美容代, おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国際医療福祉大学クリニック、国際医療福祉大学病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは母体法人関連の大学の敷地内に立地しており、1階にはディサービスセンターがあり、ホームは2階に位置している。ホームでは、編み物を楽しむ方や好きな曲を口ずさむ方、職員と共に得意の料理に腕を振るう方など、職員のさりげない支援により入居者各々が思い思いの時間を楽しむ雰囲気が溢れている。大学の敷地内という環境ながら地域との交流を大切にし、地域の行事に招待されたり、近所の方が遊びに来てくれたりと地域に根ざした生活が実現できている。また、同法人医療機関の医師が定期的に回診をしてくれており、入居者の安心した生活をサポートしている。地域との交流や医療支援などのホームの特色を活かしながら、入居者が安心して暮らし、生きがいを持ちながら自分のペースで生活が出来るよう、常に入居者の視点に立って支援にあたる環境が出来ているホームである。</p>
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価から、地域との交流を積極的に進め、大学内を地域とした考えから発展し、地域自治会、近隣住民、ボランティアとの交流が推進され、行事への参加や交流が生まれてきている。また、夜間入浴の取り組みも行い、入居者の選択肢が増えてより希望に沿った支援に近づいた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員全員で取り組み、管理者がまとめあげ、事業所の評価として完成させた。職員が今求められていることなどを評価を通じて確認する作業としても活用し、事業所としての質の向上に繋げていく資料としても活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、利用状況、運営状況の報告だけでなく、ケアの内容(入浴の難しさ)などを報告し、市担当職員から意見やアドバイスをもらって対応した経験がある。また、家族からも行事への意見などを出してもらうなど、地域や家族との意見交換の場としても活用している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「ご意見ご相談票」という家族の意見、不安等を記す様式が出来ている。家族から意見、要望が出てきた場合には、担当者、ケアマネジャー、管理者で対応を決め、結果を家族に報告している。文書に家族の意見やその対応を記すことにより、家族の意見を聞き流すことの無いよう工夫がされている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>大学の敷地内の立地という環境ながら、自治会長が好意で回覧板をまわしてくれたり、地域行事の誘いをしてくれたりしている。地域の運動会やどんど焼きは恒例行事となっており、運動会では参加しやすいように席を用意してくれている。また、入居者と交流のある地域の方が苗や作物を時折持ってきてくれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>大学の敷地内の立地という環境ながら、自治会長が好意で回覧板をまわしてくれたり、地域行事の誘いをしてくれたりしている。地域の運動会やどんど焼きは恒例行事となっており、運動会では参加しやすいように席を用意してくれている。また、入居者と交流のある地域の方が苗や作物を時折持ってきてくれる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念、基本理念を基に、3年前に「ホームスタッフ心得」を職員で作成し、曜日ごとに法人理念、基本理念、ホームスタッフ心得を朝礼時に唱和している。特にホームスタッフ心得は自分達で作成したものであり、文言も話しやすいことから支援の拠り所とすべく活用をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも「ホームスタッフ心得」を理解しており、日々の支援の拠り所としている。各種研修においても「心得と照らし合わせたときにこの研修がどのように自分たちの事業所に役立つのか」、支援上の問題が生じたときも「その関わりは心得を考えたときはどうか」など常に心得を道しるべとしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大学の敷地内の立地という環境ながら、自治会長が好意で回覧板をまわしてくれたり、地域行事の誘いをしてくれたりしている。地域の運動会やどんど焼きは恒例行事となっており、運動会では参加しやすいように席を用意してくれている。また、入居者と交流のある地域の方が苗や作物を時折持ってきてくれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で取り組み、管理者がまとめあげ、事業所の評価として完成させた。評価を活かすため、前回の評価からは、地域との交流を積極的に進め、大学内を地域とした考えから発展し、地域自治会、近隣住民、ボランティアとの交流が推進され、行事への参加や交流が生まれてきている。また、夜間入浴の取り組みも行い、入居者の選択肢が増えてより希望に沿った支援に近づいた。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用状況、運営状況の報告だけでなく、ケアの内容（入浴の難しさ）などを報告し、市担当職員から意見やアドバイスをもらって対応した経験がある。また、家族からも行事への意見などを出してもらうなど、地域や家族との意見交換の場としても活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月行われている事業所連絡会では市担当職員も参加し、各事業所での取り組みや、施設見学などの事業所間の交流も行われている。また、連絡会以外でも運営上の質問や制度上の相談などを気軽に連絡が取れる環境が整っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事の予定や報告等に活用している広報誌を2ヶ月に1回送付している他、1ヶ月に1回は個別の活動記録として、日々の様子、健康状態を担当職員からのコメントや本人の写真を掲載して送付するなど、入居者の様子を定期的に家族に伝えている。家族もとても喜んでくれ、楽しみにしている。金銭管理については出納帳で管理しており、家族が来訪時に確認のサインをもらっている。	○	運営上の方針でもあることから、職員の異動が多く、玄関に職員の顔写真を貼るなどの工夫をしているが、家族の不安感を解消する為にも広報誌や活動記録を活用して、家族に職員異動を伝える工夫を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見ご相談票」という家族の意見、不安等を記す様式が出来ている。家族から意見、要望が出てきた場合には、担当者、ケアマネジャー、管理者で対応を決め、結果を家族に報告している。文書に家族の意見やその対応を記すことにより、家族の意見を聞き流すことの無いよう工夫がされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、最小限に抑えられるよう運営者に伝えている。入居者への報告は異動する職員本人から伝えてもらい、ダメージを少なくしている。また、可能であれば、異動後も交流を持つようにし、関係が途切れないように工夫している。管理者は、職員が長くここで働きたいと思える環境作りや職員間のチームワークを大切にしており、離職を抑える努力もしている。	○	運営方針から職員の異動が多いが、入居者とのなじみの関係の大切さを尊重し、日々の支援に温かくあたっている職員も多いことから、認知症高齢者の入居者の特性等に配慮した処遇が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体が教育機関（大学）ということもあり、研修体制の整備は充実している。法人内には教育委員会が設置されており、新人、中堅、管理者に分け研修計画が作成されている。センター内研修、部署内研修が全職員対象で開催されており、参加しやすいものとなっている。また、外部研修にも参加することができ、参加後は伝達研修を行い、全職員で研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー連絡協議会や市内のグループホーム間での交流を通して、事業所間の見学会や情報交換を図っている。支援上の意見交換も行われており、入浴の促し方の工夫の方法や他事業所で行っている家族会を参考にするなど、交流を通してお互いの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に本人を含め家族と見学に来てもらい、入居者と共にお茶を飲みホームの雰囲気を確認してもらい、その様子を観察するなどして入居後にスムーズにホームに溶け込めるよう職員間で事前に話し合いを持ち、支援上の工夫などに役立てている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝食以外は入居者と職員が一緒に調理を行っている。新人職員の調理の時などには、入居者が「見てもらえない」と手伝ってくれるなどの暖かい雰囲気がある。また、ベランダの畑は入居者と職員が管理し、「虫が付いたからとらなければ」「除草剤は～がいい」「次はこれを植えよう」など入居者と職員が支えあう関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑作りが好きな方は畑の管理をしてもらったり、編み物が好きな方にはゆっくり編み物を楽しんでもらうなど、日々の関わりの中で入居者の希望や思いを引き出している。また、誕生日にはお赤飯や好きな食べ物を決めてもらい食卓に出したり、広告を見て「これ買いたいから連れてって」と買い物に出かけたり、入居者の思いを尊重している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員1人が1～2人の入居者を担当しており、介護計画の作成にあつてはケアマネジャーはモニタリング時に担当者から意見を聞き、本人の希望や家族の意向を考慮しながら検討会議を開き計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時や状況に変化が見られたときは、オムツ、リハビリパンツの使い方、歩行など適時計画を変更している。個別ファイルの最初にプランが入っており、職員はそれを見ながら支援に取り組んでいる。プランが現状から変化が出てきた場合は検討会議を行い、職員、ケアマネジャー、管理者が連携しプラン変更の手続きを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内には法人の医療機関があり、入居者の急変時には速やかに対応ができる体制になっている。また、定期的に医師の回診があり、症状についての質問にも応えてくれるので、入居者、家族、職員の安心に繋がっている。受診が必要な場合は、家族の状況に応じては職員が付き添うなど柔軟な支援に努めている。近くその他施設で行なう絵手紙講座などにも参加できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に家族と受診している入居者がいる一方で、敷地内の法人病院に通院する入居者も多い。家族が対応出来ない時は職員が受診の支援をしている。家族による通院時は受診連絡票で医師に情報提供している他、質問を記入するなど情報の共有を図っている。協力医の医師が夜間急変時には対応する体制が整備され、定期的に回診もあり、入居者の症状についての質問にも応えてくれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合、管理者、職員は早急に家族と連絡を取り話し合い、入居者、家族の意向を聞いて対応できる最大限のケアをしている。終末期のあり方については、現在は受け入れる体制が整っていないことから入院するケースが殆どだが、内部研修などで学習、話し合いを重ね、かかりつけ医、看護師など医療関係者と連携を図りながら重度化、終末期に向けた支援を検討していきたいとしている。	○	重度化、終末期の入居者の支援を検討していきたいと考えており、支えるためには医療関係者、職員の力量、家族の協力などの連携は欠かせない。ホームは方針の明確化、関係者との方針の共有が必要であることを認識しており、早い時期に本人、家族、かかりつけ医、職員と話し合いの機会をつくり、方針の共有及び明確化されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄はできるだけトイレで行えるよう一人ひとりの排泄パターンを把握し、周囲にわからないよう気を配り声掛けをしている。失禁時は本人が恥ずかしい思いをしないよう、直接的な表現を避けて何気なく別の場所へ移動するなどしている。入居者の居室へ洗濯物を届けたり、用事がある時は必ず声をかけている。個人情報が記載されている書類は事務所の決められた場所に保管し、持ち出し禁止としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の一人ひとりの状態や希望、天候などに配慮しながら柔軟に対応している。例えば起床時間、食事の準備などは入居者のペース、生活習慣を尊重しており、訪問日にも朝ゆっくり起床している方がいた。その日に着る衣類や入浴時の着替えも入居者が好みの衣類を選んで着ることが出来るように支援している。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と話し合い、好みを反映させ職員が作成している。肉、魚をバランスよく組み入れ、油ものは少な目にし、入居者の嫌いなものは避けるよう配慮している。準備、調理、味付け、盛り付け、片付けなどを入居者と職員が一緒に行っている。職員は食事中、介助が必要な人には側についていたが、全体的には必要以上の介助等はしないようにしていた。また、時には畑で作った野菜が使われる事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望で午前、午後、夜間の時間帯で入浴できるようになっている。希望により毎日入浴することも出来、時には気の合う人同士で入浴することもある。入居者の皮膚の状態をみて、季節のゆず湯を楽しんでいる。職員は拒否の強い入居者の入浴方法や言葉かけを工夫して入浴が楽しくなるよう支援したいと考えている。	○	入浴は一人ひとりの習慣や希望に多様性があり、持っている力を発揮できる場面でもあるが、想像以上に入居者は負担感、抵抗感を持っている場合があることから、入居者各々の不安や嫌がる原因を考え、服を脱ぐことを嫌がる入居者には安心感を与える工夫など、理念にある「愛情のこもった温かみのある介護」を提供出来るよう入居者に寄り添った支援を期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、ベランダ菜園での野菜作り、米作りやみそ作り、季節の行事食を作るときなどには入居者の経験や知恵が発揮されている。さつまいもの時期にはお芋パーティーや建物内の夏祭りや大学祭へも貼り絵などを出品している。月2回は買い物や外出に出かけ、毎月「長寿の祝いの日」として誕生会も開催している。裁縫、編み物を楽しんでいる入居者もおり、入居者各々が役割や楽しみごとを持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調、天候に合わせて散歩や買物に出かけている。また、季節の花を楽しみにお花見やドライブにも出かけている。季節の把握が難しくなっている入居者もいるが、一緒に出かけて窓から外の景色を楽しんでいる。訪問日には外に出たい入居者に職員が付いて出入りしていた。お墓参りや実家への帰省等の希望を家族と話し合って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は研修会などで権利擁護について学び、身体拘束の弊害について理解している。また、入居者の外出の傾向などを把握した見守りや職員同士の声かけにより、居間、玄関に鍵をかけないケアを実践している。玄関にはチャイムが設置されており、入居者の外出の気配を察知すると、後から付いて行ったり、一緒に歩くなど自由な暮らしが出来るように支援している。		

おおたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、行方不明、緊急時や事故発生時のマニュアルを作成している。毎月法人内の各施設と合同で消防訓練、避難訓練が実施され、年2回はホーム自衛消防団が独自に消防署の指導を受けながら、夜間時の火災を想定したり、エレベーターを使用しない避難訓練が行なわれている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量をチェックして個別ファイルに記録し、栄養摂取状況もある程度把握をしている。摂取量が不足気味な場合には、好物を献立に組み入れたり、補助食品を用いたり、法人栄養士のアドバイスをもらうなどして十分な栄養・水分摂取が出来るよう支援している。認知症の症状で食べ方が分らなくなり、摂取量が減り体力が衰えた入居者には、医師と連携して対応した結果、改善した事例もある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には畳スペースが設けられこたつが置かれていた。こたつの上にはザリガニの水槽があり、所々に同建物ケアセンターに来所している花屋から花が届くので、入居者が活けた花が飾られていた。オセロ、将棋、かるたなどのゲーム類やビデオテープ、様々なジャンルの音楽テープもあり、訪問日にも入居者の好きな音楽が流されるとロウさむ光景が見られた。ベランダ菜園、花壇には季節の野菜が育てられている。また、入居者が作った貼り絵や季節の作品が飾られていた。	○	最近、地域の傾聴ボランティア等の来所も増えてきているが、ホーム玄関が大学敷地内の在宅ケアセンター裏口のエレベーターで上がった2階にあるため分りづらい。入居者、家族、近所の人などが気軽に安心して出入りでき、交流を深めることができるよう、看板を立てるなどの工夫を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には入居する前に使っていたテレビ、椅子、テーブル、衣類ケース、布団など馴染みのものを持ち込んだり、好きな動物の写真、絵や置物、洗面台には花を飾るなどして、入居者が居心地よく過ごせるような居室作りがなされていた。編物が好きな入居者は、自分の居室にあるソファで編み物をしていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。